国連平和の鐘（世界絶対平和万歳の鐘）

～ 誕生と国連への寄贈 ～

一般社団法人/国連平和の鐘を守る会代表　高瀬聖子

皆様こんにちは、よろしくお願いいたします。私は昔八街市に勤めていました。佐倉は途中の通り道で、なんか佐倉という地名の響きが良くて、素敵な街だなあというイメージを持っていました。今回こうやって佐倉の皆様にお会いでき、お話する機会を得たことは、本当に幸せなことだと思っております。

■「国連平和の鐘」の成り立ち

只今ご紹介いただきましたように、本日は「国連平和の鐘」についてお話させていただきます。冒頭に鐘楼と鐘の写真がでてきました。これはニューヨークの国連本部の庭に設置されています。この鐘には、ちょっと見えにくいかもしれませんが、「世界絶対平和万歳」っていう金文字が刻まれてあります。その下には月桂樹が描かれていて、それに囲まれて三日月とその真ん中が太陽なんです。これは地球上の平和っていうものを意味しております。それともう一つ、太陽と月っていうのは陰と陽、男と女を表しており、それから家庭を表しております。男女が幸せで、家庭が平和で、それがずんずん広がっていって、国が平和であるようにというふうに考えます。まさにこれがニューヨークにある「平和の鐘」なのです。

国連平和の鐘

「世界絶対平和万歳」の金文字

この平和に鐘が設置されたのは、1954 年/昭和 29 年になります。これの寄贈のためにいろいろな機関に働きかけて尽力したのが私の父で、中川千代治と言いいます。千代治は後に宇和島市長を務めましたが、若い頃 2 度の戦争に行きました。1 度目の戦争は日中戦争で、その時は無事に帰ってまいりました。2 度目の戦争は太平洋戦争で、ビルマ戦線に行かされました。ビルマ戦線は、皆さんもご存知のように、非常に過酷な戦場でしたので、父千代治も足を撃たれて傷を負い、意識を失うんですが、気がついたら生きてたんですね。周りの仲間や部下たちがバタバタ亡くなってる中で、自分だけが生き残っていた。これはもう本当に地獄以上に苦しかったんじゃないかなと想像します。でもそこで思ったことは、自分はこの生かされている命を、平和のために使おうと、そして、二度と戦争がないように一生言い続けよう、ということだったのです。

中川千代治(1905～1972)

千代治は戦後はいろいろな仕事に関係しながら、日本国連協会の理事になり，世界へ向けた「平和の鐘」の活動を始めました。戦後すぐの 1951 年/昭和 26 年、パリで開催された国連総会に日本国連協会を代表してオブザーバー参

加しました。父中川千代治はその時英語を話せないのに、堂々と一番前の席に座って何を言ったか。「皆さんからコインをいただきたい。皆さんが持ってるコイン一つでいいです。それらを集めて一つにして、鐘を作りたいんです。世界が平和になるように、世界中の人々の平和を望む気持ちとして、『平和の鐘』を作りたいんです。」ということを日本語で話したのですね。そうしたら、この情熱が会議に参加している皆さんの心に響いたのでしょうか。なんかすごく良いことなんだと思ってもらえて、会議で受け入れられました。そして、日本で平和の鐘を作って国連に贈るということになったのです。

父千代治による「平和の鐘」への取り組みの原点は、四国愛媛県の宇和島です。宇和島市は愛媛県の南に位置しており、江戸時代は伊達家の分家が治めていた旧城下町です。私もここ宇和島で生まれ育ちました。この宇和島に中川家の菩提寺がありまして、泰平寺といいます。父千代治が戦争から帰ってきて菩提寺の鐘楼を見たら、鐘が取り外されていて、鐘楼が空になっていました。どうしたんだろうと聞いてみると、当時は戦争への供出ということで、鐘だけでなく鍋や窯などいろいろな金属が集められて兵器に変えられたんですね。その結果を聞いて千代治は愕然としました。しかし、千代治はここからだと思ったのですね、自分が持っていた 26 個のコインの他に、集め歩いたり譲ってもらった世界のコイン、それと、自分が戦争に持って行った軍刀を一緒に溶かして 400kg の平和の鐘を作りました。軍刀をこの鐘の中に溶かして入れるっていうところに深い意味があると思うんです。二度とこういうものは使わないぞ、という強い意志だと思います。そして菩提寺/泰平寺に奉納した平和の鐘に「世界絶対平和万歳」という文字を入れたんですね。いろんなお寺に行かれると分かるかと思いますが、普通はそんな文字は書いてないですよ。これが「平和の鐘」の特徴です。この「万歳」というのは、通常我々が使う万歳という意味ではなく、永遠にという意味なんです。世界が絶対永遠に平和でありますようにという意味なんです。そして幸運にも、1950 年/昭和 25 年には天皇陛下が宇和島にご巡幸され、市民が総出で旗を振ってお迎えいたしました。その時、普通なら「何してんだ」と止められるのですが、不思議なことに「平和の鐘」を陛下にお渡しすることができたのです。

菩提寺/泰平寺の「平和の鐘」（宇和島市）

いよいよ国連本部への鐘の準備にとりかかります。世界絶対平和万歳の鐘が国連本部の庭に設置されることが決まり、そのニュースを聞いた人たちから、いろいろな国のコインが送られてきました。何千個、何百 kg になったらしいんです。更にローマ法王ピオ 12 世にも直接お会いすることができ、ローマ法王からマリア像の金貨やコインをいただきました。この「国連平和の鐘」の中には、そういうコインも入ってはいますが、基本的には全部平等ですね。誰からもらったかは関係なく、道端でいただいたコインだろうが、ローマ法王からいただいたコインだろうが、全部平等に溶かして作ったのが国連に送った平和の鐘なんです。その後、父千代治はドイツに向かいます。東ドイツでソ連兵に会ったときに、「平和の鐘の運動しています。皆さんからコインをいただいて鐘を作り、各国に差し上げたいのです。」と話しました。ソ連兵が黙って手を懐に入れたので「やはり理解してもらえないな、これは撃たれるかも」と思って後ずさりしたらしいですね。ところがなんと懐からソ連のコインを出してきました。当時は、今とは違ってソ連とアメリカとの厳しい東西対立の時代であったので、その喜びは大変だったと思います。

ローマ法王や各国から頂いたコインや硬貨

そして、平和の鐘と鐘楼は、高松市の多田鋳造所の多田常之助さんと、宇和島市の宮大工の

大下林平さんにお願いして造っていただきました。これらをお願いするのは誰でもいいというのじゃなくて、千年もの歴史を引き継いできた技術者や職人を選んで、その人たちにお願いしました。でもこの作ってくださった方たちは、千代治の思いをくみ取ってくださって、無償で仕事を引き受け、お金を要求することはありませんでした。

いよいよ出来上がった鐘と鐘楼を国連へ輸送することになり、地元宇和島では大人と子供たちが集まって壮行会が行われました。また輸送船がアメリカへ向けて出発する横浜の壮行会には、元梨本宮妃殿下にもご臨席いただきました。国連に向かうに当たり、広島と長崎の被爆した人たちから、被爆地の土を一緒にその平和の鐘の場所に埋めてくれないかとお願いされ、是非そうしたほうがいいとそれを引き受けました。長崎と広島の土は、平和の鐘の設置場所に埋めてありますが、当時はあんまり公にすることはできなかったのだと思います。1954 年／昭和 29 年 3 月、飯野海運の常島丸でニューヨークに到着し、6 月に国連への贈呈式が行われました。贈呈式にはベンジャミン・コーエン国連事務局次長と日本の沢田廉三国連大使に参加していただきました。しかし残念ながら、千代治は、当時いろいろな事情から経済的に困窮していて旅費を工面できず、この贈呈式に参加することができませんでした。

ニューヨークに到着した平和の鐘(1954 年)

■「平和の鐘」を世界各地へ

父千代治による平和の鐘の運動は続きます。1961 年／昭和 36 年にキューバ危機が起こりました。アメリカとソ連の対立が核戦争にまで発展しかねない危機でした。千代治はアメリカ大統領とソ連首相に贈呈するための小さな鐘を持って，東京の駐日アメリカ大使館とソ連大使館を訪問し、どうか平和のために努力してほしいということをお願いしました。幸いなことに両国のトップの自制によって危機をどうにか脱することができたのでした。

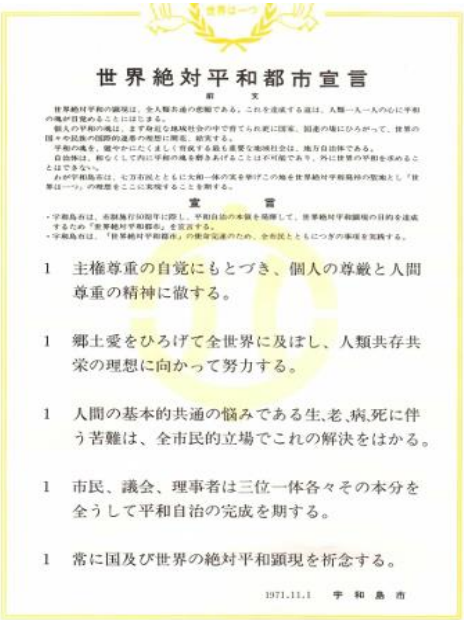
時が経って、1970 年／昭和 45 年にニューヨークから「国連平和の鐘」が日本に里帰りしました。この里帰りは、この年に大阪で開催された万国博覧会において、ニューヨークに設置されている「国連平和の鐘」を鳴らしたいという思いからでした。千代治は、ニューヨークまで出かけて国連のウ･タント事務局長に直接会い、それを申し入れしました。ウ･タント事務局長は、アジアのビルマ出身ということもあったのかもしれませんが、大阪万博への里帰りを了解してくださり、里帰りしている間の代わりとして、レプリカの鐘を受け取ってくださいました。今も大阪万博の跡地にはレプリカの平和の鐘が設置されてあります。

千代治はその後も「国連平和の鐘」と同じコインが入った小さい平和の鐘を大量に作り。140 ケ国もの

各国の大使館を訪問し「平和の鐘」を贈呈①

各国の大使館を訪問し「平和の鐘」を贈呈②

元首に贈呈すべく、東京の各大使館を自ら訪問してまわり、平和のために努力していただきたいと強くお願いしました。これらの平和の鐘は小さい鐘であっても、いつも鎌倉宮で入魂式を行いました。贈呈した国々は、ローマ法王庁、中央アフリカ、レバノン、オーストラリア、フィリピン、カンボジア、エクアドル、サウジアラビア、キューバ、メキシコなどの国々です。このように歩き回ることは強い思いが無ければできないと思います。父千代治は戦争で傷を負い、足が不自由だったのですが、二度の戦争に参加し、周りの仲間がほとんど亡くなってしまった中で、生き残ったものの役目として、一生かけて平和へ向けた運動をやり続けなければならないという強い信念があったのだろうと思います。



世界絶対平和都市宣言

前文

世界絶対平和の顕現は、全人類共通の悲願である。これを達成する道は、人類一人一人の心に平和の魂が目覚めることにはじまる。

個人の平和の魂は、まず身近な地域社会の中で育てられ次に国家、国連の場にひろがって、世界の国々や民族の国際的連帯の理想に開花、結実する。

平和の魂を、豊やかにたくましく育成する最も重要な地域社会は、地方自治体である。

自治体は、絶えくして内に平和の魂を磨きあげることは不可能であり、外に世界の平和を求めることはできない。

わが宇和島市は、七万市民とともに大和一体の実を挙げこの地を世界絶対平和顕現の聖地とし「世界は一つ」の理想をここに実現することを期する。

宣言

・宇和島市は、市制施行50周年に際し、平和自治の本旨を高揚して、世界絶対平和顕現の目的を達成するため「世界絶対平和都市」を宣言する。
・宇和島市は、「世界絶対平和都市」の使命完遂のため、全市民とともにつぎの事項を実践する。

1 主権尊重の自覚にもとづき、個人の尊厳と人間尊重の精神に徹する。

1 郷土愛をひろげて全世界に及ぼし、人類共存共栄の理想に向かって努力する。

1 人間の基本的共通の悩みである生、老、病、死に伴う苦難は、全市民的立場でこれの解決をはかる。

1 市民、議会、理事者は三位一体各々その本分を全うして平和自治の完成を期する。

1 常に国及び世界の絶対平和顕現を祈念する。

1971.11.1 宇和島市

父千代治は 1959 年／昭和 34 年、故郷宇和島市の市長に就任しました。千代治は一時はいろいろな事情から故郷宇和島を離れていたのですが、地元の方々の強い要請と応援により当選できたのでした。連続して 2 期務め、一端休んだあと 4 年後に 3 期目の市長に返り咲きました。1971 年／昭和 46 年には、宇和島市の施政 50 周年に際し、「世界絶対平和都市」を宣言しました。この宣言は。宇和島市が世界の平和運動の先頭に立つことを宣言したもので、この宣言の思いはその後も宇和島市に引き継がれてきております。

■「国連平和の鐘を守る会」の立ち上げと活動

父中川千代治は、1972 年／昭和 47 年に志半ばにして宇和島市長 3 期目の任期中に亡くなってしまいました。私はまだ若かったものですから、途方に暮れてしばらくは平和の鐘から遠ざかっていました。しかし父の思いを伝え続けるにはどうすればよいかと考え続けた結果、「人にはそれぞれ役割があること、与えられた環境の中で、精一杯自分の役割を果たして生きていくのが生を受けた意味ではないか」という思いから、皆様方のご支援を得て 2015 年／平成 27 年に「国連平和の鐘を守る会」を立ち上げました。そして、私は力不足ではありますが、その代表として活動を始めました。

９月開催の「国連平和の鐘」鐘打式に毎回参加

現在「平和の鐘を守る会」はいろいろな活動をしています。毎年９月の国連平和の日に合わせて、ニューヨークの国連本部では、日本から贈呈した「国連平和の鐘」の鐘打式が開催されており、私も毎回参加しています。鐘を突くのは、国連事務総長や日本大使で、他の参加者は下から見ているのですが、当時の日本大使から一緒に突きましょうと誘われて一緒に突くことができました。嬉しかったですね。

ミャンマーに平和の鐘を贈呈(2017)

平和の鐘を造って各国へ贈呈することも続けています。2017 年には（軍事クーデター前の）ミャンマーまで出かけて３個の鐘を贈呈しました。ボスニア・ヘルツエゴビナにも，それからサンマリノへも贈呈しました。2022 年にはロシアとウクライナの駐日大使館を訪問して４kg の平和の鐘を贈呈しました。この他にガボン、コソボ、パレスチナなどにも大使館を訪問して贈呈しました。

ハワイでは 2001 年／平成 13 年に宇和島水産高校の練習船えひめ丸がアメリカの潜水艦に衝突され沈没した大惨事があったので、それを追悼する意味も込めて「平和の鐘」を贈呈しました。イスラエルにも連絡はしてみたのですが、残念ながら返事はありませんでした。

国内でも様々な活動をしております。2022 年/令和 4 年には被爆地であります広島市と長崎市に４kg の鐘を持って伺いました。今年も出かける予定にしております。また故郷宇和島の高校生たちとも交流を続けております。今月の 7 月 19～20 日には、宇和島東高校の生徒さんが現在開催中の大阪関西万博の会場に出向き、「平和の鐘」に関する発表を行うとともに、平和の鐘のレプリカを持参して、参加者に叩いていただくことを計画していると聞いております。みなさんも万博に行く予定があれば、是非発表を聞いてあげていただきたいと思います。

広島市に平和の鐘を贈呈(2022)

長崎市に平和の鐘を贈呈(2022)

このように私たちの「国連平和の鐘を守る会」は、皆様方のご支援ご協力によりどうにかこうにか活動を続けさせていただいておりますが、嬉しいことに 2023 年／令和 5 年には世界連邦運動協会から赤松賞を受賞し、そして国連日本政府代表部から在外公館長表彰を受けました。これらの栄誉に恥ずかしくないように今後も活動を続けていきたいと思っております。

これで「平和の鐘」についての話はひとまず終わりますが、時間が少しありますので、皆さんに「平和の鐘」を鳴らしていただけないかと思っています。

（平和の鐘を守る会／桂理事による補足説明） 皆様の前に設置してある平和の鐘は４kg のレプリカで、鐘を吊る枠の大きさは、高さ 56㎝、幅 41㎝、奥行き 26㎝ となっています。このレプリカは国連に贈呈した鐘を小さくしたものですが、大事なことは実際に中川千代治が国連に送った平和の鐘と同じように、

刀や皆さんから集めたコインを使って作っています。形が同じというだけではなくて、本当に昔からの思いが詰まったものなのです。皆様には鐘を叩くことにそれぞれ願いや祈りがあると思うのですが、世界各国の皆さんと同じ体験を共有していただき、世界の平和をともに祈ることに繋げていただきたいなと願っています。鐘は３回叩いていただきますが、３回の意味は、天に、地に、そして祖先に対する感謝の気持ちを表しています。それでは会場の皆さんどうぞ宜しくお願い致します。

（「平和の鐘」を叩きました）

講演会場には、佐倉国際文化大学学生と事務局を合わせて約９０名ほどが参加していました。ほぼ全員が一人ずつ順番に「平和の鐘」の前に進み、それぞれの思いを込めて、鐘を木槌で３回叩きました。会場に響き渡る鐘の音、そしてその余韻・・・・。

【質疑応答】

Ｑ１：先生は６女とお聞きしていますが、どういうふうに育てられたのか、そしてどういう思いで「平和の鐘」についてのお父様の運動を引き継ぐことになったのか、教えていただきたい。

A1：私は７人兄弟の６女で、私の下に弟がいます。女の子供が６人もいるので、特に可愛がられたとかということはなく、その分自立心はかなり強かったのでは、と自分では思っています。父親の思いを感じるのは聖子という名前ですね。父は特定の何宗とか何教とかは一切ないのですが、結構信仰深い人で、聖天使などの言葉も参考にして聖子と名付けたと聞いています。父はお金を貯める人ではなく、みんなのためにお金を使う、役立つことを積極的に行う人だったのですが、お前の名前の聖子は神様の子を意味し、人のためにきっと役立つ子になるだろう、とよく言われました。「国連平和の鐘を守る会」の活動において私にできることは限られていますが、与えられた環境の中で、精一杯自分の役割を果たして生きていく、という父の思いは引き継いでいきたいと思っています。

Ｑ２：今先生たちは、国連の他に世界各国へ「平和の鐘」を贈り、平和を願う活動をしています。一方世界では各地で戦争や争いが絶えず起こっています。こういう厳しい現実の中で活動されていて、いろいろ自問自答を繰り返しておられると思うが、今どのように思っておられるのか。

Ａ２：人間は存在した時からいつも争っています。動物もそうです。そして武器を手にすることにより、一段と厳しくなってきています。現在世界ではいろいろな紛争が起きていますが、それでも私は、平和というのは一人一人の心がけが重要だと思います。平和になるために自分は何をすればいいのだろう、

少しでも自分のできることがあるのではないか、というふうに一人一人が思って活動すれば、僅かであっても平和に近づいていくんじゃないかな、と私は思っております。。

Ｑ３：ウクライナ戦争など昨今の世界の戦争や紛争の終息に対して、国連は全然機能を果たしていないように見えます。結局は自分を守るためには、戦いに備えて軍備拡張しかないのではないか、という雰囲気になっている。先生はどうこれにどう思っているのか。

また「平和の鐘」の運動が始まった 1951 年頃は、日本は敗戦国で，国連にも参加しておらず、そのような敗戦国による「平和の鐘」の活動は偽善だと周りから思われなかったのか。

Ａ３：確かに自分の国は自分で守るっていうことは、自分の家庭を自分で守る、子供を守ると同じことですですから、これは基本だと思います。しかし父千代治は基本的には軍備はできるだけ止め、国連が中心になって平和運動を進めていくことを基本に考えていたと思います。国連が役に立たないじゃないか、ということではなく、戦争や紛争が起こったり、大災害が起こったりしたときには、みんな協力しあって世の中をプラスの方向に持って行くにはどうすればいいか、そういう問題をリードしてくれることを国連に期待していたと思います。そのような中で日本は重要な役割を果たせる国だと思いますので、諦めないで、どうせ言ったってダメだろうっていうふうに思わないで、期待を持って頑張って欲しいです。

千代治が「平和の鐘」の運動を始めたころは戦後すぐで、敗戦国の人間は他の国からあまりよく思われないこともあったはずです。それでも、この生かされている生命を平和のために使おう、平和を言い続けよう、という千代治の思いは揺るぎないものだったと思っています。この思いが当時の国連の皆さんにも通じたに違いないのです。千代治の人柄を示す話を伝え聞いています。日中戦争に出征しているときに、自分の部隊に３つの約束をさせました。「人を殺すな、物を盗むな、女を犯すな」、千代治の部隊は、この約束をしっかりと守ったのですね。そうしたらある日、部隊のテントのまわりにたくさんの食べ物が置かれてあったそうです。

Ｑ４：国連本部の平和の鐘は、どういうときに鳴らすのか、いつも人が鳴らしているのか。それとも機械が鳴らしているのか。

Ａ４：国連本部の日本庭園にある「平和の鐘」は，年に２回鳴らしています。９月 21 日の国際平和デーと３月 21 日の国連のアースデー（地球の日）です。機械により鳴らされることはなく、いつも国連事務局の幹部や日本国連大使などにより鳴らされます。

Ｑ５：「平和の鐘」について小学生などとはどういう交流をしているのですか。

Ａ５：四国各地の小学校へでかけて、いろいろお話をさせていただいています。特に自分の原点である故郷宇和島市ではすべての小学校に伺いました。現在私は東京都多摩市に住んでいますが、そこの学校にも伺っています。もしも皆様の中で、近くの学校に来てくれないか、ということがあれば、喜んで伺いますので、声をかけていただきたくお願いします。

（桂理事による補足説明）参考までに愛媛県と大阪府の小学校の道徳の教科書には、今日お話しした「平和の鐘」について取り上げられております。

それでは，まだ少し時間がありますので、以前ＮＨＫで放映された「国連平和の鐘」に関する映像を流ます。上映時間は 14 分ほどですので、ご覧いただきたいと思います。

（ＮＨＫ収録映像を上映）

収録された映像は、2017 年／平成 29 年 8 月 17 日、ＮＨＫ「おはよう日本」の「今朝のクローズアップ」コーナーで放映されたもの。放映時間は 14 分ほど。　主な内容は

・ニューヨークにある国連本部の日本庭園に「平和の鐘」が設置されており、60 年以上にわたって毎年９月の国連総会にあわせて鐘が鳴らされてきた。
・この鐘の贈呈したのは日本人。太平洋戦争を生き延びた中川千代治さんで、のちに宇和島市長を３期務めた。千代治さんは国連だけでなく、140 以上の国や地域に、自ら作った平和の鐘を贈ってきた。
・現在は、娘の高瀬聖子さんが父の思いを引き継いで、平和の鐘を国内外に贈る活動を行っており、この夏ミャンマーを訪れ「平和の鐘」を贈呈した。
・ミャンマーでは，政府の大臣や高官などに会って「平和の鐘」に込めた父の思いを伝えるとともに、次の時代を担う子供たちとも交流し、平和への想いが引き継がれていくことを願った。

髙瀬　聖子（たかせ　せいこ）先生のプロフィール

国連ＮＧＯ（ＵＮＤＧＣ）一般社団法人国連平和の鐘を守る会　代表理事

・1954 年世界が絶対的に平和であることを願い、国連本部に「平和の鐘」を贈呈した元愛媛県宇和島市長中川千代治の 6 女。
・2013 年に『国連平和の鐘を守る会』を設立し、代表理事となる。
・故中川千代治の「平和の鐘」に生涯をかけた思いを引き継ぎ、「国連本部」の活動と連携しつつ、次の世代のために学校、地域などでの講演活動を精力的に行っている。
・2017 年以降「国連平和の鐘」のレプリカを、ミャンマー、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ、イタリア、ウクライナ、ロシア、ガボン、パレスチナ、ハワイ、広島、長崎などの各国、各都市へ贈呈している。
・毎年ニューヨーク国連本部で行われる「平和の鐘」の鐘打式に出席し、国連事務総長の撞かれる平和の鐘に世界平和を祈っている。

・2023 年 5 月 13 日に世界連邦運動協会から「赤松賞」を受賞
・2023 年 9 月 13 日に日本政府国連代表部から「在外公館長賞」を受賞